

令和3年

松前町議会

議会改革に関する調査特別委員会
(第8回)

会議録

自 令和3年 7月 1日

至 令和3年 7月 1日

松前町議会

各 位

会議録の作成にあたっては、誤りのないよう留意しておりますが、時間の関係上原稿校正は初校しかできなく、誤字、脱字等がありますことを深くお詫び申し上げます。

まことに恐れ入りますが、御了承のうえ御判読いただきたくお願い致します。

議会改革に関する調査特別委員会委員長

堺 繁 光

議会改革に関する調査特別委員会 (第8回)

令和3年 7月 1日 (木曜日)

◎出席委員 (11名)

| | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|----|-----|---|---|---|---|---|---|
| 委員 | 長 | 堀 | 繁 | 光 | 君 | 副委員 | 長 | 沼 | 山 | 雄 | 平 | 君 |
| 委員 | | 疋 | 田 | 清 | 美 | 委員 | | 飯 | 田 | 幸 | 仁 | 君 |
| 委員 | | 宮 | 本 | 理 | 恵子 | 委員 | | 福 | 原 | 英 | 夫 | 君 |
| 委員 | | 近 | 江 | | 武 | 委員 | | 工 | 藤 | 松 | 子 | 君 |
| 委員 | | 西 | 川 | 敏 | 郎 | 委員 | | 梶 | 谷 | 康 | 介 | 君 |
| 委員 | | 齊 | 藤 | | 勝 | | | | | | | |

◎欠席委員 (0名)

◎職務のため出席した議員

議長 伊藤 幸司 君

◎出席説明員

議会事務局長 鍋島 孝明 君 議会事務局書記 三上 大輔 君

◎職務のため議場に出席した事務局職員

議会事務局長 鍋島 孝明 君 議会事務局書記 三上 大輔 君

(開会 午前 9時59分)

○堺委員長 おはようございます。

ただ今から、議会改革に関する調査特別委員会を開会致します。

直ちに会議を開きます。

本日は、第8回目の会議でありまして、正副委員長において、会議の進め方について検討してまいりました。3月19日に町内会代表者12人との懇談会を開催したところであり、懇談会では、議員定数及び議員報酬をはじめ、議会改革に関する調査特別委員会の中間報告書について。更には、各界から議会に対するご意見の3点について、委員全員と議長にも出席いただき、意見交換をさせていただきました。

懇談会の概要は、先般事前に配布した資料のとおりでございますが、要約致しますと、議員定数においては、現状維持という意見もありましたが、一方では定数は減らしても良いのではないかと、減はやむを得ないのではないかとというご意見がございました。

また、議員報酬については、引き上げることで議員のなり手不足の状況が今と変わらないのではないかとというご意見があった一方で、地方議会の専業、兼業の形態の状況や議員活動の状況、報酬の基準のあり方、町財政の現状などを踏まえた中で報酬を引き上げて良いのではないかとというご意見がございました。

更に、その他のご意見と致しましては、議員との懇談会や意見交換会の開催を希望する意見が見られた他、情報の発信、議会の見える化など、開かれた議会の推進についてのご意見が多くあり、更には若い世代の議会への関心を高める取り組みが必要というご意見もございました。

いずれに致しましても、最終的にはこれらの課題は、さまざまなご意見を参考に、町議会で議員全員が、議会議員がそれぞれの判断で行っていくということになるものと考えております。加えまして、6月1日に国勢調査の速報値も公表され、人口が6千260人、前回比14.7%のマイナスという結果が示されております。

本日はその中において、議員定数と議員報酬については最重要テーマであるという観点から、町内会代表者12人との懇談会の概要並びに国勢調査の速報値を参考に、再度委員各位からの考え方をいただく議題とさせていただきました。闊達なご議論をよろしくお願い致します。

始めに、議会の進め方について、お諮り致します。

町内各会代表者との懇談会との概要及び国勢調査の速報値を元に、今後の議員定数及び議員報酬のあり方について、ご意見を賜りたいと考えておりますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」という声あり)

○堺委員長 ご異議なしと認め、そのように進めてまいります。

始めに、議員定数についてを議題と致します。今後の議員定数のあり方について、ご意見を賜ります。何かご発言ありませんか。

斉藤委員。

○斉藤委員 この特別委員会も、令和元年の9月の議会で議長発議で設置されました。さまざまな課題がありましたけれども、議会モニターの問題、あるいはタブレットの問題、あるいは議会の勉強会、研修会の問題等々、実現してきてるものも多くあります。しかし、今委員長が言うように、議員定数と議員報酬、まずは議員定数の問題を議論したいということでもあります。

そこで、私は元来無投票の選挙であったということを含めて、2名減員すべきでないか

ということを主張してまいりました。しかし、一方では帯状、つまりふんどし町だから、現有の議席を守るべきではないかという議員もおりまして、なかなか歩み寄りができないという現状にあります。

そこで、私は一定の方向性を特別委員会としても出す時期ではないかというふうに考えておりました、一方は10名、一方は現状どおり12名という議論がしておりますけれども、この辺でみんなに図って、とりあえず今期の定数は12でありますけれども、来期からは11で歩み寄ることはできないのかというふうには考えております。

11名ということになれば、様々な問題また出てきます。常任委員会の問題だとか出てきますけど、それは別個にして、10と12、その真ん中をとって11名にすべきではないかなど。1人減らして町民の皆さん、こうこうこういう理由でこうなりましたという報告をするというのが、一番いいんじゃないかと。そう思いますので皆さんに議論をお願いしたいと思います。

○堺委員長 今、斉藤委員よりご意見がございました。その他何か皆さん方でもって、こういう考えもありますっていうことがございましたら、ご意見を述べていただきたいと思っております。

近江委員。

○近江委員 先般の会議でもってですね、各委員の皆さんからの意見がもう出尽くされた感じだと思うんですね。それで、それを見ると現状のままの方がいいという、議員定数でいいという委員が多いんですね、実際的に。今、斉藤委員が言いましたように、なかなか歩みづらいところがあるもんですからね、今言ったように1名だけを減にして、11名にした方が一番手取り早いって言うのかな、妥協しやすいんじゃないかなど、私もそう考えました。以上です。

○堺委員長 こちらから指名して、各皆さんに意見聞いていいですか、挙手でいいですか。わかりました。その他、お考えのある方、ございませんか。

福原委員。

○福原委員 一番大事なことに對して、どういう結論でもっていくのかなあっていうことで、今委員長がいろいろ縷々お話をされました。

それで、今回のこの定数については、当初からずっと何回も議論なさってて、私は、斉藤委員と右と同じく、もうそろそろ結論出した方がいいんじゃないかなっていう気持ちでおりました。

それで、議長がこの特別委員会を招集したことについてのこの部分の、一番大事なこの部分について、十分に納得できるような説明がなかったもんですからね、方向性が示されなかったということなんです。それで、みんなが苦しんだんじゃないかなあっていう。

それで、この間の数字を見ますと、現状のままでもいいよと、今回はね。それで、先ほど斉藤委員も言われた、折衷案で11名でいいんじゃないかっていうこと言われました。私は、そうであれば、何も今まで議論することもなかったんじゃないかなあっていうことなんです。なぜかって言うと、議長も斉藤委員も、先輩議員方は、前の6千人1名減ってっていうことの議論をなさってたはずでございまして、はっきり言うと。そして、そこにたどり着いたわけです、それは20何人の時代かもしれませんが。

ですから、そういう理論であれば、私は折衷案だとか何とかっていうことより、今までの積み重ねを大事にして、申し合わせ事項を大事にして、そうして、今の委員がそれに結論を出すという方向で採決をとられたらいいと思ってました、今日。

そんなことで、議長がもう一度、なぜこのような考え方で提案したのかっていうことを

もう一回聞きたかったっていうの一つなの。それと、今まで歴代の先輩方が積み重ねてきた、そして、こういう申し合わせにしようというのが、今の時代に合わなくなったのかっていうことなんです。そいで、1名でも2名でもっていうことでこの提案が今の時代に合わなくなって、定数は減らした方がいいんでないかっていう議論が、議長は持ったのかなあと。そんなことを思ったもんですからね。やはり議長の考え方によって、いろいろと変わるかなあと。それと、採決なさってほしいなあと。

それと、もう一つ。このタブレットの導入であり、モニター制度に、わたしはよく検討したもんだなあと思ってるんですよ。余所ではできなかったこと、これからの議会運営にとって最も大事なことを導入したわけでございますんでね、ペーパーレスの関係で。

それで、この議員の定数と報酬が決まったあかつきには、先ほど言われたように常任委員会の組織であり議運であり、この組織自体の見直しを。議員の定数、それが、これから大事になってますんで、今日は議員の定数を決められたら、あと報酬についても自ずと議論なさんと。それで、報酬、議員定数を減にしたから報酬を加算するという考え方は、私は町民が受け入れられないんじゃないでないかなと思ったんです。なぜかと言うと、うちらはこの報酬っていうのは生活給ではないですね、生活給ではないですよ。

ですから、何と何のために必要なのかっていうことを明確になさったらいいんでないかなと。それで、国保の負担金であり、若い人達は年金の負担であり、そのために報酬の中に組み入れるだとか、きちんとした理論武装がなされて報酬を改定することを考えられたら。ただ単に若い人、僕が提案した若い人のためだとか、そんな考え方でなく、やはり議員の報酬っていうのは生活給ではないっていうのが原則論だと思っておりますんでね、そのところはきちっと明確に皆さんにわかったら、報酬についても、やはり私は考え方が出されると思いますんでね。

まあ、まず議員定数については採決とっていただいて、次に進まれたらいいなあと思っています。以上です。長くなりまして、申し訳ありません。

○堺委員長 まず、定数の方を先に大体形をつくってから、報酬の方に回っていきたいと思いますんで、とりあえず、ご意見として賜っておきます。

その他、お考え。工藤委員。

○工藤委員 今、モニター制度も発足しましたし、タブレット導入とか、大分改革進んできたと思うんです。今一步踏み出したばかりで、元々議会の活性化に繋がるかどうかという部分だと思うんですよ。ですから、まだモニターの人方の意見を聞くとか、そういう効果を検証して、それから定数って考えてもいいんじゃないかなと、私は思っています。

○堺委員長 その他ございませんか。

西川委員。

○西川委員 私は、当初から2人減で、次回からは10人でいいということはずっと言ってきましたけれど、この議員削減っていうことはですね、私は人口減少だけの問題じゃないと思うんですよ。なぜかって言いますと、今この人口減少に伴ってですね、ものすごい、我々想像すらできないような変化が、ますますこれから激しくなってくると思うんですよ。

私、何で10人っていうことにこだわったかと言いますと、前回無投票であったのももちろんありますけれど、我々の時代ではなくなったちゅう感じがしてましてですね、絶対この機会に世代交代は、もう避けて通れないと思うんです、次の改選期に。そういう意味では、今の若い人がどんどん手挙げて出てくれればいいんですけども、多分今の若い人の考え方では、こんな、こんなって言えば失礼だけでも、何て言いますかね、魅力のな

いものだっていうふうに感じてるんじゃないでしょうかね。

よく思うんですよ、町内会活動も私もやってきましたけれど、何て言いますか、若い人ほど逃げちゃうんですよ。そういった現実がありますんでね、私は思いきって10人にしまして、切磋琢磨してやった方がむしろ議会の活性化になるんじゃないかなと思います。我々は別にね、町民、今までみたいにですね、町民におもねる、おもねるって言えば言葉悪いんですけど、あすこやってもらった、ここやってもらったっていうのは、もう過去の話ですね、今はもうそういった意味では直接民主主義に近いような現状の中でね、我々あくまでも議決機関であるっていうことを、もう一回認識してもらってですね、そうしたら報酬とか、そういうものもそんなに町民の目を気にしなくても、私は兼業の話もどんどん今出てますし、専業でやるなんて、とても松前の現状では私は考えられないので。兼業しながら議会出て、切磋琢磨して、本当に気持ちの中からこの町をどうするのかということ、この前の懇談会でも、ほとんどの方がこういう懇談の機会を設けてほしいということ言ってるんですからね。

だから、やはり一体となってやるのであれば、むしろそっちの方に精力って言いますか、を傾けてですね、本当にこの後どうするかが、10年後、20年後どうなるかちゅうことを真剣になって語り合えるような、そんな懇談会を持つような。だから、我々の議員もですね、今までと違った意識でやっていかなければ、なかなか大変だと思います。

本当に、理想的なことと言えばきりないですけど、私はまあ、次には絶対出ないように決めておりますから、本当に減った分をね、補充するっていうんじゃないくて、ぜひ私は10人でね、ということ、また声大きくして主張しておきます。

○堺委員長 はい、ありがとうございます。

その他、自分のこういう考えですよっていうことがありましたら、述べていただきたいと思います。どうでしょうか。

沼山委員、どうですか。

○沼山委員 私、最初から現状維持派でございました。現状維持派なんですけど、ただ、やはり現状維持で走れないっていう部分も現実問題あると思います。それは、やはり著しい人口減少、それから前回が無投票であるということ。このまま現状維持でいった場合に、町民に受け入れられるかっていうことを考えた場合には、ちょっと難しいものあるんでないかと。そういった意味では、1名減の折衷案は、まあ、受け入れるべきなのかなあという思いはございます。

ただ、前回各界の代表との懇談会でもあったとおり、あまり間口狭くしすぎると、新しく挑戦する人の間口が狭くなるということも踏まえると、やはり1名減に留めるべきかなというふうな思いしております。以上です。

○堺委員長 こちらからご指名していいですか。疋田委員、考えをお聞きしたいと思います。

○疋田委員 いろいろと今お話聞いたんですけども、やはり原口から白神ふんどし町ですから、その間に関しては、やはり今の現状のままの方がいいのかなあと思ってました。

また、ただ、どうしても減らすとか減らさねえとかっていう話なるかと思えますけれども、そうなったら1人くらい減らしてくれれば、まだいいのかなあ。ただ、今それだけです、思ってるの。

○堺委員長 宮本委員、いかがでしょうか。

○宮本委員 12年ぶりで選挙運動した時に、周りから聞こえたのは、やはり人口の割に定数、12人っていうのは多いんでないかっていう声がすごく、減らせ、減らした方がいい

い、減らした方がいいっていう声があった時に、私は、松前町は長い町だから、どうい
うところを減らして、どうこう増やすとか、そういう問題でないと思うって、12人の人が一
生懸命やってね、くれてる間は、今の現状でいいんじゃないですかっていうことで、ずっ
と返事してたんですけども、今こうして議会改革のお勉強させていただいて、人口減に伴
って、議員の数も減らすべきなのかなあと思いはしております。

それで、2名減っているのはすごく急だと思うんで、1名減あたりからはじめてもいい
んじゃないかと思ってます。

○堺委員長 飯田委員、どうですか。

○飯田委員 前は12名という定数で提出しました。その後、国勢調査の結果でショッ
クを受けたり、ちょっと今のところ迷ってますので、ちょっとまだ迷ってる最中ござい
ます。以上です。

○堺委員長 梶谷委員、いかがでしょうか。

○梶谷委員 今日で8回目ですよ、特別委員会。おなじこと言ってんのか、定数にして
も、報酬にしてもね、また同じことを言わないといけない。

やっぱり議員とこの定数についても、報酬にしてもね、ほとんどの委員の意見も集約し
てるし、それからいろんな会合での立場の人方のご意見も聞かせてもらってる。そういう
ものをトータルしてね、整理してみると、私はやっぱり定数を定める基準はね、選挙にな
ったら定数に達しなかった、あるいは定数で止まってしまった、結果的に無投票でござい
ます。だから定数をどうしましょうっていう議論じゃないと思うんですよ。

やっぱり、かつては人口規模だとか、財政力だとか、そういうものを基準にして法で定
めていた定数が、この地域の実情に合わせて各々の自治体で決めなさいって法律に変わっ
てるの。それで、今までこうやってきて、しかも8回やった中でそういうものを踏まえて
今日に至ってる。で、中間報告、本特別委員会のね、中間報告も出されましたと、そこに
具体的な数字だとか、そういうものまで載っていないけれども、その時点ではもう既に議
会の意志ってのは、現状維持が6人、定数減が5人、報酬の方までいけばまだ話は別なん
だけでも、そういうものを考えるとね、今また同じことを私言わなければいけねえのかな
って疑問感じてんですよ。

やっぱりね、定数は地域の声を反映されるためには、多ければ多いほどいいですよ。
しかし、それではやっぱりね、現状に合わない面もあるから、それだけで変えるわけにも
いかないし、それから更にはね、議会の活動が定数を減にすることにどうなるかっていう
議論もしてないでしょう。おそらく定数、今の現状維持にして12名にしたって、委員会
も現状の2委員会、構成メンバーも6人6人ってな形になる。それで、実際に委員会活動
だとかね、いろんな活動が支障があったかどうか、あるいは十分であったかどうかって議
論もまだしてないし。だから、そういう議論をしたうえでのね、定数のあり方ってないの
かなと。

だって、今まで8回のこの資料をずっと私も何回も見てね、整理してる。それから、こ
の間、各界代表の方々のご意見も聞かせていただいたその中身からいったってね、やっぱ
りまちまちですよ。だから、そうした声をあとは我々がどう理解して、どうまとめるかっ
ていうことになるのかなと思うんでね、もういい加減に定数、報酬、きりつけましょうよ。

私、今までの議員生活の中でね、議会改革っていうと定数と報酬だ、ほとんど。今回の
各界代表の懇談会を聞いて、私びっくり、びっくりってね、ああ、そうなのかなと思うこ
とはね、やっぱり一番の声の大きいのはね、そこじゃないですよ。議会活動の見える化を
希望してるの、町民の人方は、議会議員って何やってるんだろうと。そういうものもが町

民によくわかるような議会にしなければいけないんでないのかなっていう声大きいの。

だから、そういう議論だっこの課題の一覧表まとめた中にも出てるでしょう、町民懇談会、意見交換会、報告会。これは短期的にやらなければいけないっていうことになってるけども、これだっ議論してないでしょう。まあ、全くしてないと言え言過ぎになるけどもね、十分な議論は私はしてない。ですから、いい加減に議会の意志決定しましょう、ね。何回も同じこと言う、私も同じこと言わさる、だから。

今定数の関係でね、お話しましたけども、あとの問題、課題についても私も各界代表の方々の意見交換会の資料もそれなりに、自分なりにまとめてきてますよ、どうあるべきかってことをまとめてきてます。それから、委員の皆さんが出されたこの課題もね、これからどうしなければいけない、そういう議論になるんであれば、私は前向きでいいのかなと思ってるの。また、定数か、報酬かって話になるとね、いい加減に結論出してください。○堺委員長 皆さんから、いろいろご意見がございましたけども、まだこういう考え方もありますよという意見がありましたら、述べていただければ。

今、皆さんの話を聞いてますと、やっぱり現状維持って方もいれば1名減、理由を皆述べられました。もう結論出した方がいいというご意見もありました。本当にできればね、早めに結論を出したい方向なんですけど、とりあえず、議会としての、議員としての形をやっぱり定数減にするのかっていう形をしっかりとしないと、町民の方々の、懇談会の中においてどうなんだっ言われてしまいそうな気がしますんでね、その辺をきちんとやっぱり踏まえながら進めて行きたいと思います。

福原委員。

○福原委員 僕も文章では書いてましたけども、町内会連合会その他で議員の定数について、いろいろと議論があっ、先日も有識者ってんでしょ、それらの方々とお話して、流れとしてはそういう議員定数の見直しについて、ニュアンスが多く聞かれたんでね。そうであれば、何でそういうふうなことが、ニュアンスとして出てきたのかなというふうなことを思うんですよ。でも、今梶谷委員が言われたように、もうずっとやってきてますんでね、まず定数を減らすかということの一つ聞いて、その次にそれが決まったら、したら何人にしますかということを決めてもらいたいんです、二つ目ね。定数を減らすっていうことになったら、次は何人にしますかということが大事だと思います。そうすっというんな形で見えてきますんでね。そんなことで、皆さんの気持ちとしては採決とりましょやっってことですから、委員長、採決とりましょ。ぼかしでなくはっきり決めてしまっ、それに向かっみんながまい進すればいいんでないですか。

○堺委員長 斉藤委員。

○斉藤委員 私、最初に発言しましたけども、いつまでも現状維持の12でいいという立場の人と、10でいいという人もいるわけですよ、中には。ですから、無駄な議論をしてきたと指摘する人もいますけど、私はそう思わないんです。この特別委員会が終わるたびにそちらこちらで人方の話を聞いてまいます。そうすれば、一番先に出てくるのが前回の選挙は無投票だったもんね、減らさなきゃ駄目だべさと、こういう人が圧倒的に多いですよ、私が聞く限りですよ。ですから、報酬の話は次にしますけども、議員定数については、一定の減員するより私は方法がないというふうに感じてるんですよ。だから、10と12で今双方が走ってるわけですから、この中間をとって、1人減で一定の方向性を見出すべきだと。

これは、本会議でないですから、本会議にかけて定数決めなきゃ決定しないですからね。やっぱり方向性は今日出すべきだと、そう思います。

○堺委員長 ここは決定機関ではないですので、皆さんの意見を聞きながら、どっちの方向に行くかということは決めることはできると思うんですよね。先ほどから、今日人数を決めた方がいいんでないかというご意見が多々ありますんで、どうでしょう、やっぱり、議長、どうですかね。そしたら、議長の意見もとりあえず聞いてみましょう。

○伊藤議長 どうもご苦労様でございます。いろいろとお話ございました。梶谷さん、そして今の福原さん、それから斉藤さんからもそろそろって話が来ました。一つですね、工藤委員さんから、モニターさん、モニター制度つくったので、モニターさんの意見を聞いてからいろいろ考えたらどうなのって話がありました。

私としては、梶谷委員さんも言いましたとおり、8回にも及ぶ会議を開いておまして、ここで意志決定って梶谷さん言われましたけども、この定数は議決をしないと最終的に決まりませんが、私、できれば今日この場でですね、数字をきちんと示して、一つの形をつくってほしい。そうすると、次の町民の懇談会、なかなかコロナの関係でやれてませんけれども、もうしばらくすると多分会議を開くことができると思いますので、私どもこういう考え方をまとめましたっていう数字を示して、意見をもらうという段階に私来てると思うので。今日、どういう形で決定と言えればいいのか、まとめって言えればいいのか、そこまでもってほしいなと思って今日来ました。

数字どうすんだっていう話なりますけども、私は当初から2減の提案をずっとしてきましたけれども、いろいろ皆さんのお話聞いたり、先般の各界の人達のお話を聞いて、2減っていうのはちょっと性急すぎるなって判断しましたので、先ほど来いろいろありましたけれども、1減の11名でとりまとめを今日していただければ、次の常任委員会どうするとか、そういったことにも繋がっていくし、また、今申し上げましたとおり、そのまとめをもって各種懇談会に臨みたいというふうに、私としては思っていますので、そのように取り計らいをお願いしたいと思います。

○堺委員長 議長の考え方も聞きました。議長としては、やっぱり今日何とか人数、定数を今日何とか決めてほしいと。これが決定するわけでないんですけど、とりあえず、議会の考え方として定数を決めてほしいって考えでありました。その他に数名の方から、今日定数をきちっとしたらいいんでねえかっていうご意見もありますんで、そういう形に進めて行きたいと思えますけど、いかがでしょうか、皆さん。

(「異議なし」という声あり)

○堺委員長 いいですか。そしたら、あとは定数ですね、1名減の11がいいのか、現状維持がいいのか、2名減って方もおりますけども、多数の意見として、とりあえず1名減の11と現状維持って形で話を進めて行きたいと思いますが、採決してよろしいですかね。

○福原委員 委員長、減させるかさせないかということが、まず一つ目だ。二つ目に今のやりたいことやればいいんですよ、何もそこまで一気にいかないで。そうしたら、みんなの気持ちが固まってきますよ。

○堺委員長 先走りしまして申し訳ないです。

まず、そうしたらですね、定数を減にした方がいいかどうかを決定したいと思います。

減にしたいっていう方、挙手お願い致します。手を挙げていただければ。

○斉藤委員 諮り方、ちゃんとしてけれ。

○福原委員 もう一回言ってください。きちんとなないと、大事なことだよ。一番。

○堺委員長 11名にする。

○福原委員 定数を減にするかしないかで。

○堺委員長 1名減にするかしないかを。

○齊藤委員 福原委員言ってるように、減しますか、現状いいですかっていうことを踏らなきゃいけないことが一つなの。その次に人数のことをやればいいんでねえかって、そういうことだよ。

○堺委員長 それでは、議員定数を減にするか、現状維持かで決めたいと思います。

減にしたい方、手を挙げていただければ。我々も手を挙げていいのかな。

(定数減に賛成者挙手)

○堺委員長 減にしていってという方が多数おりますんで、そしたら減ということで、定数の方は。

その次は、何名を減にするかということで、とりあえず今の意見だと1名っていう方と、2名っていう方がおりますけども、はじめに1名減って方、おりましたら。

(定数1減に賛成者挙手)

○堺委員長 はい、わかりました。1名減ってという意見の方が多数おりましたんで、そしたら、この定数減に関しましては、1名減ってということで話を進めてまいりたいと思います。

それでよろしいですね。

(「異議なし」という声あり)

○堺委員長 それでは、これからの話し合いっていうか、協議は1名減を元に進めて行きたいと思います。

15分休憩したいと思います。

(休憩 午前10時37分)

(再開 午前10時51分)

○堺委員長 再開致します。

次に、議員報酬についてを議題と致します。今後の議員報酬について、何かご意見ありませんか。

齊藤委員。

○齊藤委員 報酬については現状でいいのか、上げた方がいいのかっていうことを、とりあえず皆さんの意見聞いてもらった方がいいんでないですか。

○堺委員長 先ほどの議員定数と同じように、議員報酬を上げた方がいいっていう、今までの会議の中でありましたんで、まず、議員報酬を上げた方がいいか、現状維持がいいかっていうことで、皆さんに決めていただきたいと思います。

議員報酬を上げた方がいいという方、挙手をしていただければ。

○福原委員 挙手とるのはいいですけども、ちょっとだけ議論なさったら。そして、報酬を上げた方がいい人、現状維持と。その採決とる前にいろいろやってみましたけどもね、まとめて8回の中で、上げた方がいいっていう人と。上げるとなれば、きちっとした大義名分がなければならない。

それと、現状維持っていうのは、松前町の所得、平均所得が今年間200万を切ってるはずですよ。前、私が一般質問した時、松前町の平均所得が200万と言われてました。今落ちてるはずですよ、高齢化で、53%の人達が65歳以上ですから。そんなことを考えると、皆さんの意見がね、そこできちっとした大義名分がないと報酬を上げるっていうことが。現状維持っていうのは、そんな松前町の現状考えたら現状維持だなあと。そういうことの考え、ちょっとあつたら聞いて、それがなければ採決とられたらいいと思う、

意見がなければね。

○堺委員長 福原委員より今、皆さんの考え方をとりあえず聞いて、その中でもって挙げた方がいいかということにしていきたいと思います。

待ってください、飯田委員。

○飯田委員 前回の回答では、市議会の話だとかいろんなことを書いて、思ったとおりのことしか書いてなかったんですけど、町の財政その他トータルで考えた時に、人は減らすけど上げるっていう考え方よりも、現在の現状維持のままで単純に定数を一つ減らして、議会費全体を1人分減らすというふうな考えとしてまとまっています。やはり、先月からの国勢調査ですとか、実施に去年から今年かけてコロナウイルスのこと考えると、とてもじゃないけど、私達報酬、例えば5千円でも1万でも上げてくださってというような感じには、ちょっと私はならないので、私個人としては現状維持のままでいいのではないかと、いうふうに考えてます。以上です。

○堺委員長 斉藤委員。

○斉藤委員 私は、若い人が出てこれる、出てきやすいように一定の報酬を上げるべきだということを主張してきました。

さっき福原委員が報酬だから生活費でないと、こういうことを言いました。本質的にはそのようなことだと思います。しかし、現実には年金生活者が多いわけですよ。年金生活者っていうのは国民年金の人もいれば、公務員だとか、共済だとか厚生年金だとかいろんな種類あるわけですよ。我々は国民年金に入るもんですから、月にいくらいくらっていう年金しかもらえないもんですから、私は報酬も生活費の一部になってます。これが現実です。

ですから、若い人が出てきやすいようにとか、生活費の一部の足しになるようにというところで、私は20万以上にすべきだという主張をしてきました。

それで、今回の報酬の値上げについては、今のコロナの問題だとか様々あって財政が苦しくなるだろうという見通しは、飯田委員と同じ考えです。しかし、1名を減らせばいくらかの現状の予算が減らせるんだということになったら、その範囲内で計算してみて、委員長として、その数字を議長に報告して、議長が町長に言う、町長はそれを持って報酬審議会にかけると。こういう手続きがあるわけですよ。そういう手続きを踏むためにも、令和5年までは現状のままの18万円以上のことになりますからね。令和5年は改選がありますからね。令和5年度以降の改正のことになりますので、現状の予算を上回らないように、12名の予算を上回らない程度に値上げすべきだと私は思っています。その数字は、委員長、事務局長とはじいてみてですね、それを委員長で、委員長名で議長に報告して、議長と町長があって報酬審議会にかけていくということにならざるを得ないのかなと思います。以上です。

○堺委員長 その他、皆さんからやっぱり一応意見を聞いて、どっちの方向性にするか決定したいと思いますので。

沼山委員。

○沼山委員 この報酬については、増額すべきと考えます。というのは、今私達の報酬をどうのこうのっていう議論ではありません。次の世代の報酬のことを議論しているわけですから、そういった意味では、やはり報酬といえども、しっかりとある程度生活水準、できるだけの報酬は必要でないかと思います。

ただ、現状のままでは令和5年改選期以降のことを考えると、やはり見直すべきでないかなというふうな思いでおります。以上です。

○堺委員長 疋田委員、考え方を。

○疋田委員 今、いろいろとお話聞いたんですけれども、自分とすれば、やはり現状維持のままかなあとと思ってました。

ただ、この報酬に関しては、令和5年度、来年、再来年なんですけれども、その時期なったら人口も含めてどういう形になってんのかなと。そう思いますと多分減少だろうと思います。そうなりますと、やはり議員報酬も若干上げた方がいいのかなあと、そう、たった今そう思いました。よろしくお願ひします。

○堺委員長 宮本委員。

○宮本委員 報酬アップの話は、やっぱり若い人方に、もっともっと議会に理解深めて、立候補してもらいたいってことで話した部分もあると思うんですね。それで、今齊藤委員おっしゃったように、ほとんど今、我々ここにいる議員さんは年金受給者がほとんどだと思います。

ただ、若い人が出てきて生活するとなったら、今のままで生活できるのか。そういうふうになると、兼業とかそういうことも含めて考えていって、今令和5年になると改正どうのこうのって話なんですけども、その時にはやはりこれから若い人方にも出てきてほしいですし、いくらかでもアップした金額であればいいと思っております。

○堺委員長 福原委員。

○福原委員 悩むね、悩む。議員報酬は生活給ではないということだけでも、しかし、現実的には生活の糧にしてるんですよ、私も。ただ、皆様方より年金が少し多くもらってると、夫婦でね。だから、それで兼業を、仕事をお持ちになって議員をやっている方、この方々が今も大多数でございましてね。

それで、昔のことを考えてみると、報酬だとかそんなことより、俺は町のためにやってやるんだと、町をどうにかしたいんだという、そういう志っていうんでしょうかね、そういうものがあつたんですけども、時代はやはり変わってきたのかなあとと思いますよ。やはり、若い人に生活のきちとした基盤がないと、それである程度のことをできるように、生活ができるようにしてあげなければならないなど。しかし、そういうチャレンジ精神を大事にしなければなんねえなど。そうすつと、上げるっていうことと現状維持っていうことで気持ちが板挟みになってるんですよ。だから、若い人達も仕事を持ちながらチャレンジしてくれる、そして仕事場でそういう環境を整えてもらうという。

どうしても町の議会ですから、市だとか都道府県だとかと、国とは全然意味合いが違ってくる、役割は同じですけどもね。そこのところで今悩んでる。結論は、皆さんの意見を聞きながら、挙手の時には出す。

○堺委員長 西川委員。

○西川委員 私はまあ、当初齊藤委員が言ったようにですね、やはり減った分、2人減らしたら、2人分の範囲内であつていうことを主張しました。

ところがこのコロナの関係から、町の状態を見ますと、現状維持で仕方ないかなあというふうに変つたところでもあります。まあ、定数が11人ということが大体決まつたように思いますけれども、その範囲内であれば、報酬アップもありかなあというふうに思つてます。

○堺委員長 梶谷委員、考え方を。

○梶谷委員 また同じことを言わんといけないですか。

全国のね、町村議会の議長会で、定数と報酬に対してまとめた冊子がありますよ。何十ページになってますよ。その中で結論を見ますとね、なかなか適正な報酬の算定は難しいってことになってます。ですから、地域に応じた決め方をしなさいということになってま

すよね。

ただね、人は人、自分は自分っていう考え方で意見を述べさしてもらいますとね、やっぱり手が無い、若い人方が出てきてくれることを期待しながら、なんぼか上げたらいんでねえかって議論はいただけないね。だから、上げるとすればこういう議論でこれぐらいっていう話までいかないかね、いい加減にただ上げたらいかべとか、現状でいいっていう話、私は現状でいいっていう考え方でいるんですよ。これはもう意見を聴取した際から私は変わってませんから、これはずっと述べております。

ですから、手続き手順からいけば、斉藤委員のおっしゃるように、まあ、増額をしましょうと、そうしたらいくらにしますかと。そうすると町長部局では予算算定しながらこれぐらい、そして、最終的には報酬委員会にかかってものが決まるっていうことを考えればね、それは流れを見ないと私も最終的な結論は出せませんが、個人的な見解とすれば、現状維持でいいと。

○堺委員長 近江委員。

○近江委員 私は以前からですね、前回の無投票という選挙を鑑みてね、やはり若い人が出てきにくい、出ても生活できない状況だというふうに捉えておまして、ですから、我々今議員、70歳の議員が大勢を占めてます。若い人が出ることによってね、議会の活性化なり、町の活性化なりが芽生えてくるというふうに感じてますので、若い人がね、少しでも出やすいような環境を整えるために、議員報酬は上げた方がいいという考え方で。

○堺委員長 工藤委員。

○工藤委員 私は現状維持派です。なぜかっつうと、松前町の所得標準から見て、これ以上上げるっちゃうのは、何か町民の理解が得られるのかなあ。それから、まず議会の魅力をまだ完全に発信していない状態で、そして、後継者っていうか、これから議員になろうっちゃう人方が本当に出てくるのかな。ただ、1万2万上げて、はいって手を挙げる人はいないだろう。もし、生活基盤がちゃんとできるのであれば、普通のスタートラインにみんなが立てるんじゃないか。でも、議会の魅力を十分に発信していないと、ただお金だけ積んでもちょっと無理と思いますし、令和5年からのものを考えると、やっぱり現状維持とは言っているんですけども、それだけで本当に、現状維持の議員報酬で手を挙げてくれる人はどれだけかなって、それも不安ですし。

とにかく議会活動見える化、そして町民の理解、そういうものを得て、そして報酬も上げるのであればいいんですけども、それがちょっと悩ましいところです。

○堺委員長 議長、何か意見がありましたら。

○伊藤議長 皆さんご意見を聞かしていただきました。私は当初から定数減と報酬増額は1丁目1番地だという話、ずっとしてきました。金額をどうするかはですね、これからの議論なると思いますけど、現状維持なのか、増額なのかっていう話になればですね、私は令和5年度から始まる新しい体制のために、今から私どもきちんと決めておくべきだと。増額することによって、果たしてくるかどうかわかりませんが、私どもの議会の姿勢をきちんと示したいと、そのように思っております。

本来、私は2減の4、5万増という考え方持ってます、それは先ほど言いましたとおり、とても性急過ぎるのではないかということで1減望ましい話しました。金額は別にして、例えば斉藤委員さんから、議会費の減額分を充てたらどうだという話ございました。400万ちょっとだと思います。その計算は、私もう既にしておまして、そうするとどの程度だっというのもわかっております。金額はどうかは別にしますが、増額の意味をしっかりと考えてみなきゃいけません。若い人だとか、次の世代のために私どもは環

境を整えたいということですから、金額ってとても大事だと思います。

ただ、皆さん言っているとおり、松前町の現状の経済状況から見ると、大きな数字はとも望めません。ただし、議会費の減に伴う分だけ増額したとして、ただ、私はこの次言おうと思っておりますけども、実はこの間、各界の代表者の懇談会がありました。その時に北洋銀行の酒井支店長、この人の書いたのがとても気に入りまして、その次に来るかもしれない人のためにどうすればいいのかと。多少の報酬の増額ってくるのかねっていう話があります。その他にもう一つが、議会活動を活発にしてくれっていう、そのため用のお金も考えた方がいいですねって話があります。

ですから、私としては議会費の減によって生まれるお金の分は増額にしますけども、それでいいのかっていう気持ちもあります。いずれにしても、報酬審議会に出さなきゃなんないんですけど。さっき斉藤委員言われましたように、まず私と町長と数字をどうすんのかをやります。

ともかく、私は増額で皆さんの意見をまとめてほしいというふうに思っています。私達のためではなくて、次世代のための環境整備ということで、そういうことをまとめていただければなと思います。以上です。

○堺委員長 福原委員。

○福原委員 議長の今言われたことには、ある程度納得するんですけども、あまりにもうちらは次の世代のことに配慮をしすぎだなあっていう気持ちがある、今日話を聞いててね。それで、上げる根拠が次の若い世代というふうなことを言うけど、本当それが正しいのかなあと思ってますね。

それで、やはり今回はそれをしないで次回にね、その結論を出したらいいなあっていう気持ちに今動いたんです。なぜかって言うと本当に現状だとか、ちょっと上げたとかっていうことに、今のまんまでもし行った時に、新しい新人議員さんが立候補しないのかっていうことなんです。そういうこともないんじゃないかという気持ちが過ぎてるんです、町を歩いてて。

それで、上げることはいいんです。しかし、配慮のしすぎは町民の生活の今の所得水準からいって、すごく苦しいなっていう。それで、もう一つは先ほど議長も言いましたけど、斉藤さんも言ったけど、1名減らして1名分を、俗に言う議員報酬でなく政務調査費でもいいですから、そういうふうな形で物事をした方が、議員の活動としては、まあ、認めてもらえるかなあという気がしたんです、報酬ではなく。

ただ、政務調査費っての使い勝手がいいようで悪いもんだからね、それで二の足踏んでいろいろ問題起こす部分なもんだから、そんなことで考えて苦しいなあと思っていました。申し訳ないです、いろんな惑わしてしまってますね、申し訳ないです。

○堺委員長 皆様方から、いろんな個人の思いを聞きました。話を聞いてみますと、どうしても増額がいいか、現状がいいかの二つの方法でありますんで、できればここでもって決めたいと思います。決めて、要するに、どっちにしても報酬審議会にかけなければならぬし、私達には決定権ありませんので。ただ、方向性として、我々はこういう方向で行きますよってことを決定したいと思っておりますんで、これから採決、採決って言うか、決めて行きたいと思っております。

まず、報酬を上げてもいいって方、挙手をお願いします。

(報酬増に賛成者挙手)

○堺委員長 現状維持でいいって方。

(現状維持に賛成者挙手)

○堺委員長 したら5名、5名ですね。

もう一回、挙手お願いします、現状維持でいいっていう方。

起立させた方がいいですか。

そしたらもう一回、最初から行きます。

増額してもいいって方、起立をお願いします。

(報酬増に賛成者起立)

○堺委員長 現状維持の方、起立をお願いします。

(現状維持に賛成者起立)

○堺委員長 今、現状でいきますと5名、5名の方々ですけども、我々含めますと増額の方が多いいことですので、それは後は議長にお願いしまして、町長との話し合いをしていただきたいと思えますけど、それでよろしいですか。

増額するってことで。

今、5名、5名ですけども、私の考え方を申し述べさせていただければ、私はやっぱり増額をしていきたいなという考えでありますんで、そうなりますと、6名、5名という形で、議長にお願いして、町長の方で方向性を示させていただいて、町長とあと話し合いをしていただきたいと思えますんで、そのようにさせていただきます。

それでは、まず議員報酬につきましては、今述べましたように、これから取り計らって行きますんで、よろしくお願い致します。

次に、次回の委員会の進め方について、何かご意見ございませんか。提案でもよろしいです。

福原委員。

○福原委員 1回目に、今回議運の委員長が話し合いする話題を出してくれていうことで、あえて私は出さなかったのは、1回目に皆さんが種々考えて出した文書があるんですよ。ほとんど議論という議論がなされてなかったんでないかなと。それで、あそこのその他の欄、いろんな部分で大事なことが書いてますんでね、僕はそれを叩き台にして、次回の特別委員会をやられたらいいと思う。

そして、常任委員会の一つ、今回1名減らしたことでどうするんだと。二つのものを一つにするとか、いろいろ議論があるんですよ。そんなことで、ちょっとあのものを、1回目のものを教材として議論したらいいんでないかなと思いました。

○堺委員長 斉藤委員。

○斉藤委員 多くのテーマを抱えればね、何がどうなってるかよくわからなくなってしまうから、とりあえず今、特別委員会としては、11名になりましたよということを受けて、今福原委員が言った項目別一覧表で常任委員会の構成をどうするのかと、あるいは政務活動費をどうするのかと。この二つを中心に次回やってみたらどうですか。

ほぼその最初の21項目、定年制ってのはなくなったので20項目ですね。この中では結構議会モニターも、公選法も改正になりました、これもよくなりましたね。議員年金は要望しています、議会経費も削減たって、やっぱり監査委員事務局受けて人件費カットしてるわけだから、この辺も一定の評価すべきだと思うんですよ。だから、やっぱり常任委員会の構成だとか、そこを政務調査費、これまず中心に次回やってみたらどうですか。

○堺委員長 今、福原委員の1回目の提案を叩き台にしてやったらいいかという考え方と、斉藤委員の今回定数削減やら、報酬やらの話が出ましたんで、常任委員会、定数削減にあたっては、今後の常任委員会のあり方、そういう方を進めた方がいいんでないかというご意見がありましたんですけども。

○福原委員 齊藤委員言われたように、今柱二つ出してくれたわけさね、時間があつたら何もどんどんどん足していけばいいでしょう。そういうふうにして、皆さん方の考え方を出示してもらったら。これからの大事な議会運営だから、形の頭は決まったんだから。

○堺委員長 そしたら、齊藤委員の今述べました総体で進めて行っていいですか。

○福原委員 どうぞ、どうぞ。

○堺委員長 わかりました。今回は、今齊藤委員から述べられました議題を進めて行きたいと思います常任委員会と政務活動費の使い道、使い方、そういうことを審議して行きたいと思いますが、よろしいですか。

(「異議なし」という声あり)

○堺委員長 その他ありませんか。

○近江委員 とりあえず、その二つをね、次回、重点としてやった方がいいと思います。

○堺委員長 近江委員からも今、先ほど2名の方々提案されました進め方についてを進めて行った方がいいんでないかというご意見もありましたので、それを今後の特別委員会の進め方として、行っていききたいと思います。

それでは、あとないですかね。

(「なし」という声あり)

○堺委員長 もし、特になければ、正副委員長にご一任いただきたいと思いますが、ご異議ありませんか。

(「異議なし」という声あり)

○堺委員長 ご異議なしと認め、そのようにしたいと思います。

次に、要求したい資料は、この次に。

(「なし」という声あり)

○堺委員長 それでは、異議なしと認め、そのように決定致しました。

特に、あとないですかね。

工藤委員。

○工藤委員 コロナが終息しないとどうしようもないことなんですけども、できるだけ町民懇談会とか意見交換会、そういうの多くもっていただきたいと思います。

それから、今議員定数のことや報酬のこと、一応過数で決まったんですけども、何か議会の方から数字を町民に持って行くっちゃうのが、どうも私は心苦しいんです。町民の方からの要望があつて出てくんであればわかるんですけども、ですから、できるだけ懇談会を多くもっていただきたく思ってます。

○堺委員長 その他ありませんか。

(「なし」という声あり)

○堺委員長 ないようでありますんで、次回の委員会の資料等につきましては、正副委員長にご一任いただきます。

お諮り致します。

本日の委員会はこれをもって閉会したいと思います、ご異議ありませんか。

(「異議なし」という声あり)

○堺委員長 ご異議なしと認めます。

なお、次回の委員会の開催日につきましては、正副委員長にご一任お願い致します。

よって、本日の委員会はこれをもって閉会したいと思います。

今日はどうもご苦勞様です、ありがとうございました。

(閉会 午前11時23分)